

アーカイブ 通信 No.26

No.26

2022.11.1

◆編集・発行：

ネットワーク・市民アーカイブ

事務局

〒189-0012 東京都東村山市萩山町 2-6-10-1F

tel・fax：042-396-2430

E-mail：info@archive-tama.sakura.ne.jp

◆正会員 1 口 6,000 円、賛助会員 1 口 3,000 円 / 年

ゆうちょ銀行 振替口座 00120-9-729226

口座名：市民アーカイブ ※団体会員 2 口～



2022年6月5日、当会総会開催にあわせ、ネットワーク・市民アーカイブ8周年記念講演会として、松野哲二さんをお招きしてお話いただいた。

当日は、ご自身の生い立ちや東芝府中工場などでの多彩な活動を通じて、松野哲二さんをお招きしてお話いただいた。

市民アーカイブ多摩 開館8周年記念講演会 報告

一枚のビラから

現場から発信することば

お話：松野哲二さん

(チマ・チョゴリ友の会
府中緊急派遣村)



振り返りながら、人権や社会正義にかける熱い思いと、それを支える方法や知恵を、多くのエピソードとともに語られた。1枚のビラにも、活動を支える熱い思いや理想、知恵や技法が盛り込まれている。市民活動資料の保存と活用をめざす市民アーカイブ多摩は、現場の活動から何を受け取り、何を伝えていくか。語られたメッセージには、それらを考えるための多くのヒントが含まれている。

■白紙で出した学カテスト

私は1949年浅草の生まれで、4人きょうだい(姉2人、兄1人)でした。家で鶏を飼っていて、卵がごちそうでした。浅草では三社祭があり、子どものころから祭りと、父がラジオで聞いていた広沢虎三の浪曲「清水次郎長伝」の「お民」にあこがれて育ちました。

中学3年の時、全国学力テストが実施され、校門でまかれた反対ビラには「このテス

トはエリートと労働者とは選別する」と書いてありました。勉強がでなかった自分は一生工場で働く側と思っていたので、全部白紙で出そうと友だちとも話し合いました。翌日、担任から「白紙答案が1枚だけあった、校長室に来い」と一言。教頭は「お姉さんが悲しむぞ」と、同じ学校の数学の教師だった姉を使って脅してきました。その翌日の科目テストは名前だけ書いて白紙で提出。今度は何も言われませんでした。

公立高校に落ちて、世田谷の私立和光中学校に進学しました。和光は、クラスごとに自主的な研究活動が文化祭時にあり、1年で障害者問題、2年で山谷の日雇労働者問題、3年で宗教問題をクラス課題として取り組みました。3年では独自に「社会問題研究会」を作り、「戦力なき軍隊、自衛隊」のテーマで研究発表しました。また、初めて自分でビラを作り、学内配布しました。ベトナム反戦集会デモのビラです。先生に呼び出され、「松野、お前は情けない。誤字脱字が多い。もっと勉強しろ」と言われました。

法政大学では「デモ部」に入りました。当時、昼と夜では違うセクトが建物を管理していた夕方に交代し、それを全一

支配と言います。そのやり方が許せなかったので、反対するビラを、入れ替えにあたる夕方に撒いたら、両方の組織からたたかれました。その頃の活動のビラには、グラムシの考えにならって「カタルシス」というタイトルをつけた。ある時以降、チラシには必ず連絡先(住所と名前)を書くようにしています。受け取った人が意見を寄せられるようにするためです。

■東芝府中工場で裁判支援

東芝に入社して、労使一体の府中市議選を追求し、これも労使で推進する原発・兵器生産に反対するビラ、「労働者の声」を作り、門前配布しました。労使は直ちに過激派が会社をつぶす」と徹底的に支持者をあぶり出し、村八分による「自主退職の強要」を繰り返しました。私たちの反原発の確信には東芝出身の高木仁三郎さんの存在がありました。三里塚闘争でもお世話になり、東芝で反原発講座を開き



学びました。

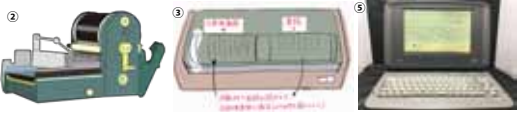
職場八分と弾圧で仲間の上野仁さんが体調を崩し、上野さんが起こした東芝を相手にした裁判を応援するようになった時は、『じんじん』という通信をつくりました。上野仁さんの「仁」、人権裁判の「人」です。この人権運動にも東芝労組は会社の味方となり、私たちを弾圧しました。

この裁判は、弁護士から勝てないと言われていました。会社情報が情報独占しており、労組も敵でした。しかし、勝つことができました。これは当時、多摩地域で毎年開催地を移動して開いていた「憲法・平和・環境・まちづくりを語り合う、草の根交流集会」の皆さん、反原発市民・労働者運動の皆さんからのご支援が大き

ピラ作りのツール

- ①ガリ版 「きやきや」もありました
- a ロウ原紙、b ヤスリ板、c 鉄筆、d 修正液、e 印刷機とローラー
- ②手回しの輪転機
- ③自動で版をつくる機械
- ④活字 (和文タイプ)
- ⑤ワープロ (講習会に通う)
- ⑥パソコン

① a ~ d 同本誌 (ガリ版制作販売サイト) <https://okamotoyoku.shop-pro.jp>
e: photo by Signum Expo (CC BY SA 3.0)
f: ルウエーのペルソナで使われていたもの
② by André Koehn (CC BY SA 3.0)
③ 制作: 堀内 昭 90年代に撮影
④ photo by Yoh-Plus (CC BY 4.0)
写真は東京 Rupo2 年 11 月発売の雑誌



当日資料より

かったからでした。

■いじめホットライン、チマ・チョゴリ友の会、派遣村

地域からの支援で裁判に勝ったのだから地域に恩返しをしたいと、職場や子どものいじめの両方について、「学校と職場のいじめホットライン」を開設しました。素人が電話を受け、相談者となる活動を13年間続けました。マスコミを活用して広報し、相談員も公募しました。

その活動で、お子さんを自死で亡くしたお父さんが、「子どもを自死に追い詰めたのは教師、私でもある。『いじめられるお前にも責任がある』と問い詰めた」と話された。この発言から、日本社会で最も理不尽ないじめを受けているのは朝鮮学校の生徒ではないかと自覚しました。そこで、1999年に「チマ・チョゴリ友の会」を作りました。朝鮮料理教室、朝鮮文化とふれあうつどい、ハンダグ講座、在日一世と家族の肖像・写真展などを開催し、地域社会から差別をなくす活動を始めました。

2008年、リーマンショックの後に生まれた日比谷公園の派遣村に触発され、これを地域で日常化しようと「府中緊急派遣村」を作りました。

そして、東日本大震災が起きました。福島原発の多くは東芝が関わる原子炉を使用してい

松野 語 録

1. 高校の時の、白紙の答案用紙も、今から思えば、一種のピラだった。
2. 一枚のピラをつくるには、いろいろなことを勉強する必要がある、それにより、ぼくは社会を知ることができた。作業を分担して、その機会を仲間にも広げたかった。
3. 古いピラやミニコミを手許に残してあるのは、それぞれが一つの作品のように思えるから。
4. ピラは、そこに書かれた内容や情報を、もっとも知らない人たち、もっとも遠いところにいる人たちに撒きたい。
5. つくったからには、一枚も残さずピラは使いたい。
6. ピラ・ミニコミには、発行者の連絡先(松野さんの電話、住所)を、必ず明記するようにしている。集会や運動の宣伝ではなく、困っている人と繋がるのが、ピラやミニコミの目的だから。
7. “人と繋がりたい”という思いが先にあって、ピラやミニコミをつくっている。
8. 思い出に残るピラは、なんらかの危険が自分に及びそうだと感じながら、印刷したり、撒いたりしたもの。
9. 目的に合致した手段を選んできた。
10. 三里塚闘争の支援活動のなかでつくった「いつでも、どこでも、誰でも、三里塚」というピラ。
11. 東芝人権裁判支援のニュース『じんじん』のテーマは「裁判の社会化」。読者一人一人が、具体的に裁判を支援するかたちを作り出す。たとえば裁判の争点の一つになった「トップ」をめぐる情報提供などを、呼びかけた。
12. 名簿が固定化していることは、なにも運動していないことを意味する。
13. 歌の代わりに、宴席で自らのピラへの思いを話したら、朴保(パクポー)さんがそれを聴いてくれて、「一枚のピラ」という題名の楽曲をつくって、唄ってくれた。

ます。私たちは一番ボランティアが少ないと聞いた南相馬への訪問を始めました。マッサージグループと合同で飯館村にも行くようになり、ほぼ2か月に1回、計49回訪問しました。

■運動は日常の中にある

最近では、やわらかい表現のピラになりました。たとえば、「裁判の傍聴に来てください」という表現です。これは、3・11の原発事故の被災地で行っているマッサージ活動でお世話になっていた整骨院のAさんが2020年にお店を開鎖されたことをきっかけとした解雇撤回裁判のピラです。

運動のきっかけは、知識からではなく、日常の中にあります。このことを学んだのは、松下竜一さんの「濫訴の弊」作戦からでした。府中に来て講演して

いただいた松下さんは、今民衆はみだりに訴えを起こすべきではないという考え方が広まっていますが、これに抗することが大切と話されました。

■ピラづくりのポイントと戒め

1. 目的を明確にする。
2. 配布対象を意識する。不特定多数が相手の場合は紙の片面だけに留める。
3. 目的に合致した内容か。
4. 伝えたい内容の構成を考え、起承転結をはっきりさせる。
5. 大事なことは、2か所、3か所に分けて繰り返しちりばめる。
6. かならず連絡先を入れる。

7. 文字そのものもデザイン。
8. マンガやイラストなどを使

う。仲間が増えると紙面も豊かに。

一方、自分への戒めも含めてですが、ピラでの自慢話・文字・主張だけは、いけません。誰に訴えているか、どうしてほしいのかわからないものはダメです。

【当会運営委員との対話】

講演会にあたって、3回打合せを行う中で出てきた言葉を「松野語録」(右欄)としてまとめました。少し深掘りしていきたいと思います。まず、多くのピラが松野さんの手元に残っていることに驚きました。記録しようと思いついて残されたのでしょうか? チラシを残すことが危険だった時代もあったと思います。

松野: 1971年に爆撃機が横田からベトナムに飛び立つ

ており、5月5日だけはやめさせたくて、5千人が集まって基地のまわりで座り込みをしてた時に捕まったことがあります。パトカーが浅草の実家に7台来て、引っかかり回されました。机に、「横田基地を麻痺させる」とメモを残しており、それが有罪の決め手になりました。

今残っているのは、ガサ(警察による資料の押収)対策で、ある人のところに預けてあった段ボール3箱です。その都度捨てるという考えもありましたが、自分たちで運動をやるしかなく、継続性を考える上で必要でした。当時はアーカイブズの考え方も方法もありませんでした。

ビラ撒きのコツや姿勢など教えてください。

松野…早稲田大学構内でビラを配っていた時、詰襟の学生に囲まれて、「当局の許可を得たか?」と聞かれ、情けなく「これまで許可を得て撒いたビラはない」と答えました。

ただ、どこで撒くかは注意していました。東芝府中工場があるJR北府中駅の場合、白線が構内と外の境になっていて、工場側の守衛が来ると駅側で、駅長が来ると工場側で撒きました。大労組の大集会のビラ撒きでは、開始前に座席の上に撒きました。スタツフと思われていたと思います。

——日常の問題を見逃さないことが大切だと話されましたが、継続的に力を発揮し、成長されてきたエネルギーはどこから出てくるのでしょうか。

松野…あえて言えば、家族だと思っています。もうひとつは仲間。そして自分自身のわがまま。長く無党派で来て、36年間東芝にいましたが、その半分は村八分の状態。工場の窓を壊してやめようと思ったこともありましたが、仲間がいたから続けることができました。家族に苦勞をかけましたが、何とか我慢してくれました。

——今日も多くの仲間が来られて、つながりを大事にされているのがわかる。

松野…子どもの頃、家のそばに山谷があったのを知りませんでした。高校に入ってから、労働者の町、山谷を知ろうと、皆で行って仲間ができました。問題意識がなければ隣にいても仲間はできません。来るものは拒まず、去るものは追わず。組織ではなく社会的課題を自分でやる。それぞれの自由でやることでつながりができます。

——場面ごと、局面ごとに仲間が現われるのですね。たとえば朴保さん。

松野…沖電気の田中哲朗さん解雇撤回闘争に行った時、歌手の朴保さんが飲み屋で歌っていた知り合いました。チマ・チョゴリ友の会を始めてから、電車でたまたま会って下高井戸の飲み屋で話しました。縁ができたので、高校無償化排除反対のデモで、朴保さんに歌ってもらいました。打ち上げで、カラオケの代わりに「一枚のビラ」という演説をしたら、朴さんが、それを曲にしてくれました。

——「裁判の社会化」という言葉を使っていますが、その意味・思いは?

松野…東芝人権裁判の時、相手の法律事務所は大御所で、勝てないと思っていました。裁判を法廷だけにとどめず、社会化して、1人ひとりが支援する形をめざしました。会社側は、タツプという工具を折る上野さんにいつも始末書を書かせていました。会社側の主張では、タツプは折れにくいという説明でしたが、実際はそうでは



多くの仲間がビラを撒く

ありませんでした。八重洲ブックスセンターの工業技術系の棚に、東芝技術者が書いた本があり、そこに「折れやすいタツプ」という記述があるのを僕の連れ合いが見つけて教えてくれました。裁判所に提出することができました。裁判の争点を支援者に伝え、広く社会化していくことが大切です。

【参加者との応答】

参加者…レジュメに「人間の魅力あふれた社会主義」とありますが、春日庄次郎氏の考え方でしうか。

松野…この時代に社会主義か?と思われるかもしれませんが、春日さんはグラムシに学び、人間の顔をした社会主義をめざしました。組織や運動もその理想を内包したものでなければなりません。共産主義は、本来いっさいの官僚主義とは無縁で、階級のない、国家も政党もない社会、人間と自然が限りなく大切にされるといえる考え方が私の原点です。核戦争の時代に、全体が死滅してしまう手段は使いません。これも高校時代に「バートランド・ラッセル平和財団」に学びました。ビラ1枚作る場合も、その理想を内包していなければならな

いと思っています。
参加者…松野語録に「人がやりたがらないことを、僕は引き受

ける」という言葉を加えたいです。

松野…運動で大切なのは雑用だと思っています。仲間と一緒に雑用をこつこつやること、つながりや継続を作っていきます。人が多く集まることを、自分があえてやる必要はありません。朝鮮学校の支援という、二の足を踏む人が多いのです。

参加者…チラシを撒いていると受け取りが悪く、若い人はスマホを信用している。活動している人は高齢化していつてしまふ。若い人に伝わるための術とは何でしょうか。

松野…ビラを撒いていても、受け取るのはわずか。たしかにむなし。でもそうしたのは、私たちでもあります。しゃかりきに後継者を、と考えずに、必要があれば続ける。継承は大事だけれど妙案はないです。
参加者…「ひとつのテーマにひとつの運動」という考えを松野さんから聞いたことがある。知らない人に知っていただくため連続講座を開こうとしたが、ネーミングに苦労した。

松野…名前はその課題に取り組む人が決めることです。人権運動と今は言っていますが、初めは労働運動でした。人権裁判という言葉を思いついた時も、しかしこれに対して勇ましい活動家から「めめしい」と

いう言葉を聞きました。「内ゲバ反対」を、内ゲバばかりの大学でやりました。高木仁三郎から学んだ三里塚の活動でもネーミングに苦労しました。全国集会をやった際、「いつでも、どこでも、だれでも三里塚」とし、高木さんと無党派で座り込み闘争を4泊、都会の真ん中の日比谷公園で行いました。

裁判闘争当事者の上野仁さん、支援仲間の川名さんと細川さんからも一言お願いします。

上野仁：昨年の9月に65歳で東芝を退職しました。いじめられ始めたのが23歳、裁判を始めたのが25歳。何とか続けていくことができました。今まで松野さんの個人的なことを知らないで一緒にやってきたので、今日は聞けて良かった。

川名法男：松野さんとは長いきあいです。人権裁判の時、若い細川さんが『木の葉通信』を、松野さんが『枯葉通信』を作っていて、とても面白かった。安西史郎さんという大御所からは、左翼用語を使うな、いつも言われていました。

松野：川名さんは、僕が工場の便所の壁に書いた「スト無し賃上げ無し春闘万歳！主催御用東芝労組、共催東芝」という落書きを見て、理工系の学生向けの会社告発パンフレットに写真を紹介して、同じ便所を使っ

ている、くさい仲間がいると探して知り合いました。自分は東京都職業訓練校で旋盤を学んで東芝に入り、川名さんは東大物理の大学院を出て入社したという違いがあるのに、最後の給料は同額でした。そのくらい川名さんは会社からにらまれていたのです。

細川生朗：高校の時、文化祭で反戦の展示をした時、松野さんの文書に出会って人権裁判に関わるようになりました。北府中駅で『じんじん』を配布した時、露骨に嫌な顔をする人もいましたが、熱心に読んでいる人もいて、ビラの効果を思い出します。今は編集の仕事をしています。

参加者：相手への言葉の返し方は、いつ学んだのですか。

松野：人の話を聞くことでしょうか。ビラを作る時、相手と対抗するには勉強していかないと勝てない。それ以前に、勉強していない言葉は相手に伝わりません。

参加者：緊急派遣村の話をもう少し聞きたいです。

松野：府中緊急派遣村は、日比谷公園で行われた派遣村活動を地域で日常化することがねらいでした。生活保護の申請を進める手伝いなどをしていきます。国立市の福祉事務所から体験を話してほしいと依頼されたり、行政でできないこと

は派遣村に声をかけてくれるようになりました。福祉事務所の職員はあまりにも過重労働で職員数も少ないのです。活動には融和も大事。グラムシの陣地戦の考え方で、蚕食していくことの大切さを思い出します。助けられた人が、今度は私たちを助けてくれる。貧困の連鎖から人権の連鎖へ、と呼んでいます。

参加者：若い人が「考える」ことに絶望するような装置が、家にも学校にもできてしまった。以前は、棒一本使っているいろいろなことを工夫したり、共有したりするようにしていた。今は、スマホがそれを壊してしまふ。自分の身の回りから変えたいと思っていますが、学校や家庭についての思いを聞かせてください。

松野：マルクローゼは「深く静かに絶望せよ」と言いました。いつかそのような時代がやってきます。しかしその時、たじろがずに備えることが大切だと思います。ただ、深く静かに絶望せよといっても、どうしようもないほど落ち込んでいく人はいません。そういう人といかにやっていけるか。それぞれの課題を、地域で構造化していくことが欠かせません。

答えは皆さんの日常的な活動の中にあると思います。
(記録・編集＝運営委員会)

催しのご案内

シリーズ“現場”を訪ねる⑧ 福島原発事故の記憶と検証 ―双葉町・富岡町・いわき市を訪ねる―

- ・2022年11月26日(土)～27日(日)
- ・集合26日13:15 JR常磐線・双葉駅改札口
- ・解散27日17:00 JR常磐線・富岡駅
- ・主な訪問先：東日本大震災・原子力災害伝承館、原子力災害考証館、とみおかアーカイブ・ミュージアム
- ・参加費 20,000円(宿泊費、夕・朝・昼計3回食事費、タクシー移動、入館料、保険代)
- ・定員：15人(要事前申込み、11/10締切)

「目録」を考える2(仮)

市民アーカイブ多摩にアイデアを持ち寄ろう！

- ・2023年2月4日(土) 14:00～16:30
- ・会場：市民アーカイブ多摩(玉川上水駅徒歩8分)
- ・内容：多摩地域公共図書館におけるミニコミ収集状況報告と目録の役割や内容の知恵を出し合う

【申込み】ネットワーク・市民アーカイブ事務局
tel・fax：042-396-2430
E-mail：info@archive-tama.sakura.ne.jp

市民アーカイブ多摩の四季⑫

冬 クリスマスローズ

広い樹林地の端に、花びらを拡げて咲いているのを見つけたと、しゃがみ込んで、つい一緒にしゃべりします。



Helleborus niger (クリスマスローズ) は、ヨーロッパ原産で広く栽培されるキンポウゲ科の多年草。同属の20種ほどの野生種のうち、冬に咲くのはこの1種だけです。20世紀後半にイギリスで品種改良が行われ、クリスマスに咲くバラ(花形が似ている)と名付けられたそうです。キリストの誕生を祝う贈り物がないので悲しんでいた貧しいユダヤ人の少女の目から涙が落ちて、そこにこの花が咲いたという物語が知られています。一方、有毒植物でもあり、属名のHelleborusはギリシャ語のHelenin(殺す)とbora(食べ物)の合成語で、薬物として昔の戦争で使われたこともあるようです。

(畠田仁・むらたじん)
元東大小石川植物園園長

ミニコミ紹介

市民アーカイブ多摩が所蔵する、団体や個人が発行する会報・通信(ミニコミ)を、発行者の方に紹介していただきます。

チェルノブイリの子どもたち

「チェルノブイリ子ども基金」は、チェルノブイリ原子力発電所事故の被災地の母親たちの呼びかけを受け、募金活動を始めたのをきっかけに、1991年4月に設立されました。これまでに医療機器、医薬品、ミルク、教材、放射線検知器のほか、救済物資数十トンが被災地に贈られています。

96年7月から毎年、ベラルーシとウクライナのチェルノブイリ被災地の子どもたちのための保養プロジェクトを行っています。事故から36年経過した今も、放射能汚染地区の病気の子どもたちへの支援活動が続いています。

ニュースレター『チェルノブイリの子どもたち』は92年1月



- 1992年創刊、年3回発行、約1500部、B5判、16～22頁
 - 会費制ではなく、募金くださった方にニュース送付。
 - 当館所蔵：1号(1992年)～
 - E-mail: cherno1986@jcom.zaq.ne.jp
- ▽123号(2022年10月) 内容＝ウクライナ緊急支援の報告、ベラルーシの病気の子どもたちの保養プロジェクトの報告など。

隣人

今は忘れかけた草莽(そうもう)という語があるが、草莽を志す人士の集まった「草志会」が、会誌『隣人』の母体である。

西多摩に拠点を置き、中里介山の縁者である櫻沢一昭氏が近隣の知友に呼びかけ、1976年に歴史・文学の研究会として発足した。

谷合氏見聞録、武州世直し一揆資料、田中千弥日記など、多摩者たちの状況と、支援の様子を掲載しています。

以前は事務局から毎年現地を訪れ、保養施設や病気の子どもたちの家庭の様子について、写真とともに紙面に掲載してきました。しかし21年からは新型コロナウイルス感染症蔓延により、そして現在はウクライナでの戦争の終わりが見えないことにより、現地を訪問することができなくなっています。そのためこれまで長く交流が続いているウクライナ・ベラルーシ両国のNGOや、支援をしている家族たちと日々連絡を取り合い、それぞれから伝えられてくる様子を紙面(ブログ)にも掲載、で報告しています。毎号、ご寄付が実際のどのようなに使われているかが伝わるように心がけています。

(佐々木真理)



- 1984年創刊、年刊、500部、A5判、約150頁。
 - 頒価1部1,000円
 - tel: 042-552-0903 (菅井)
 - 当館所蔵：3号(1986年)～
- ▽35号内容＝「中里介山『浄瑠璃坂の仇討』覚書」「出会いと人生・人々の恩」「井上光晴と橋川文三」「山の神めぐり1」「私家版つれづれ」「色川大吉さんのゼミナールに通った頃」、資料紹介(2本)

周辺の近世資料から学びはじめ、中江兆民、柳田國男、南方熊楠、菅江真澄、鈴木牧之等の主要著作の読み解きに取り組み、毎月の例会を以て会を継続した。83年頃に学んだものを各自が文章化し、皆で大いに恥をかいてみようとして、会誌の発行に踏み切ることになった。

名称は『隣人』にしたが、これは、中里介山の個人誌であった『隣人の友』から借用したものである。『隣人の友』(1926年10月創刊)には、介山の思想の根幹を示した標語「隣人より村落へ、村落より都会へ、都会より国家へ、国家より万有へ、万有より本尊へ」が掲げられていた。

この意を受け止めて、まずは互いが認め合う隣人でありたい、そこからささやかな研鑽の日々の一歩を踏み出してみたいとする想いが込められていた。年1回の発行を目標とし、お互い仕事、本業を持つ傍ら、学び続けることをよしとし、学び得たものを自由に年に一編の文章としてまとめてみようという約

束となった。毎月の例会は、85年頃からお互い、仕事が多忙となり持てななくなったが、ともかく書くことだけは続けてきた結果、84年の創刊以来、2022年で35号に至った。

最後に、草志会が40年以上、『隣人』が35号まで続いたことについて触れてみたい。

それは会員の共通項、土台となっていてのが個々の読書にあるということである。各自が関心を持つテーマを有し、個性ある読書が続けていて、それは恐らく死に至るまで途切れることはなからう。従って読書は書くことのベースにもなり、人生の積み重ねにもなっている。書物へのこだわりと畏敬が、各自の個性を育て研く土壌となっているのである。情報化社会が進むなか、かたくなに書物にかかわる文化を何よりも大切に、これからも精進を重ねたく思っている。毎号を楽しむに待ってくださる読者のあることもありがたいことである。(菅井憲二)

第2回 5月28日

地域に根差した学びと活動

— 八王子市浅川地域を中心に

奥田さが子さん(元浅川地区社会教育推進委員会委員)



武蔵野市に生まれ育ったが、八王子市の浅川地域に移り住んで約50年になる。小学校の図工科教員をしていた。

■浅川地域での学びの場

浅川地域は戦前に中里介山が地域の子どもたちを集めた日曜学校「隣人学園」を開設するなど、古くから学びの風土が作られていた場所である。教育委員会から公民館に代わる組織となるよう要請を受けて誕生した浅川地区社教は、八王子で初めてできた地域の社会教育推進団体であった。地区社教が企画した各種講座から子育て、環境保全などにかかわるグループ、団体や、たくさんの趣味のサークル

が生まれ、のちに住民協議会主催となって今に続く町民運動会、文化展も始められた。

当初は市からの補助金が支給されて講演会も講座も無料で開催でき、地域に全戸配布する広報紙も作成することができたが、補助は徐々に減って、2005年にはとうとう打ち切られた。講演会では参加費をとることで、行政からの支援がなくなつた。行政からの支援がなくなり財政的に厳しくなつてからも、浅川でしかできないことをやるべく「浅川発見講座」や地域の方が気軽に参加することのできる「井戸端会議」などを企画し続け、絵画教室や味噌づくり講座、地元に残る浅川地下壕の見学会なども行なつてきた。

21年に力尽きて浅川地区社教は幕を閉じた。今年、それまでの歩みをまとめた『50年のあゆみ』という記念誌を刊行し、活動

を一区切りとした。

■地域に根差した学びを目指して

本来、社会教育はカルチャースセンターとは以て非なるものである。社会教育には「地域を耕して育てる」という視点が欠かせないはずだ。かつては社教委員だけでなく地域団体有志も巻き込んで、杉並区や松本市など、先進的な活動をする地域へ積極的に視察に訪れ、より良い社会教育のあり方を学んでいた。取り入れられるものを吸収しながら、地域に根差した学びを展開していくことが大切なのだと思ふ。

いままでの活動を振り返ると、実に楽しかったと思う。楽しくなければ、活動は続かない。現在私は美術教育、環境問題に力を入れて活動が続けているが、若かつたら浅川町の独立運動をしたいなあ。浅川地域には高尾山があるが、魅力は決してそれだけではない。地元の人と一緒に、まだまだたくさん郷土の歴史や文化を学びたいと思つている。

「学び」には人をつなげる力がある。浅川地区社教で地域の講座を開催したときは、毎回多くの市民が来ていたことから、いまでも「学びたい」という市民の要望はなくなっていないと感じる。経済よりも文化や学びが軽



んじられているいまの状況に危機を感じているが、地域や国の未来を決めるのも私たちの「学び」であるはずだ。

○参加者の感想から

- ・地域の人々の学習活動を通して経験談から「公共性」の構築の必要性を知覚しました。
- ・身近なところで社会教育の活動が積み重なり、歴史をつくり、学びをつくつていたことを改めて再認識しました。
- ・学びが人をつなげるという言葉の意味を考えたい。
- ・社会教育・地域の学びをどうするか、新たに認識する機会になりました。
- ・公民館からコミュニティセンターへの転換の背景、現状が少し理解できた。
- ・パトンを次にどう渡していくのか。浅川にはその種がたくさんあるのですね。

(記・奥田さが子(会員))

第3回 6月25日

いのちを活かせビジュアル資料

～戦前・戦中の映像「よみとき」の経験から～

中村光一さん(NHK元職員)



私たちは、日本の近現代の歩みや人々が生きてきた時代時代の体験を、多くの文献、文字資料で辿り知ることができます。一方、映像作品(動画資料)には、文字資料では表しきれない情報が

含まれ、また時代の空気を感じ取ることができます。私がそれを知ったのは、60歳定年を挟んで前後9年間、NHKアーカイブスで担当した、戦前・戦中の動画収集とデータ

ベース(以下、DB)作成を通じてでした。

緑蔭トークでは、日本最初の記録映像(明治30年)から、日露戦争、関東大震災、昭和初期のアマチュア映像や15年戦争期のニュース映画などを観ながら、個々の記録映像が内包する情報(いのち)を掘り起し定着させる、動画DB作成の実際と特徴についてお話ししました。

■世に出回る「まがいもの映像」

古い時代の記録動画を集めて有料で貸し出す某業者さんの映像リスト(DB)には、「日露戦争の日本海大海戦」「徳川大尉の日



本初飛行」などがありますが、よく見ると、写る戦艦はもつと時代が後のもの、初飛行とされた映像(複製機)は、徳川大尉のではなく日本初の飛行機墜落事故の墜落直前の映像です。それと知らずに(リストを信じて)使ったNHK番組があり手痛い失敗でした。「DBは怖い!」間違いの拡大再生産にならぬため、たえず検証が必要です。ユーチューブの動画なども鵜呑みにできません。

■資料化に必要な

映像の「よみとき」作業

動画は文字資料にはない情報を内包するといっても、「この映像は、いつ、どこ、何が写っている」のかは、字幕やナレーションがないと、時が経つにつれ判読

不能になり、資料価値がどんどん減衰します。記録映画プロダクションなどのプロ作品でも音声があるのは昭和12年ころから。ましてアマチュア撮影では字幕もないのが大部分です。

そこで、写る映像の中から、とき、場所、内容を知るヒントを探し、同時代の写真、動画や文献資料とも突合せながら「よみとき」で、映像DBに具体的に記述してゆきます。

「ロゼッタ・ストーン」に記された古代エジプト文字を読み解けたので、他の古代エジプト文字の諸文献も歴史史料となったといわれますが、古い動画の読み解きは、動画が歴史資料(史料)としてもつ価値(いのち)を活かす大前提となります。

■アマとプロ、目線の違い

例えば、「出征」。プロが撮るのは隊列を組んだ出兵部隊の市中行進、アマの眼は個人に向けられます。出征する隣の息子が自宅前で隣近所の人たちを前に決意表明、最寄り駅まで沢山ののぼり旗とともに集落の皆が行進し送る様子です。

スポーツでは、たとえばプロは「明治神宮体育大会」、戦時中には銃をもって走るハードル競技に時代が現れます。アマが撮るのは村の小学校の運動会、定番の競技種目にまじって、戦時中は、校庭で匍匐前進という軍事教練まがいの競技すら見られます。多くの運動会の映像から種目の変遷をみると、やはり時代、時代が見えてきます。文字資料のみでは伝わらない時代の

空気を感じ取れます。字幕もナレーションもないアマチュア映像も「よみとき」ば、貴重な「歴史史料」です。

○参加者の感想から

・期待してきたとおりのデータベース化の具体的な(大変な)お話で良かったです。

・中村さんのプロ意識に強く動かされました。

・アーカイブズの役割の大切さを、そして気をつけるべき点を再認識しました。

・後世のために、個人として使命感にかられてコツコツと作業された貴重なお話でした。

・近代史の映像は重要でありながら、収集が不十分である事実を知って、あざんとしました。

(記・中村光一＝会員、資料調査スタッフ)

リレーエッセイ

へ市民アーカイブ多摩のひとつ②

聴く、聞こえる



佐藤 啓子

資料整理
ボランティア

市民活動資料室「市民アーカイブ多摩」にはどんな人が集っているのか。当番・ボランティア・利用者によるリレーエッセイ、開館日にぜひ会いに来てください!

この夏で7年間務めた運営委員と当番を卒業してボランティアに戻った。

初めて市民アーカイブ多摩を訪ねた時、岸中さんの庭は1年で一番美しい時期だった。白モクレンが満開で、ブドウ棚の下からの景色は桃源郷にいる心地がした。その環境に惹かれて月2回のボランティアに通うようになったが、何を楽しみにという、資料という本流ではなく、傍流かもしれないその自然

環境の美しさや、会の人達の温かさだったように思う。

当番で行った時は、庭の主人である岸中さんが必ず庭を廻っていた。岸中さんが亡くなられてからしばらくは、庭の草木に元気がないように感じたものだった。動植物は、美しい音楽や、やさしい言葉がけをして大事に育てるとその思いに込められる、ということがよく言われる。よく乳の出る乳牛、やさしい性格のペット、美しい草

花。私はその反対のことを花にしてしまい、申し訳ない気持ちで思い出す。手入れが悪い、ということではない。子どもが小学生の時、私の誕生日のプレゼントに、と30センチほどの「トケイソウ」の鉢植えをもらった。すぐに駐車場沿いのフェンス際の上に下ろし、2年後くらいから花が咲き始めた。その後、不思議な時計の様な形の花がフェンスを覆い、通る人の目を毎年楽しませてくれたのだが、ある

時、それを見た人が「何か気持ちワルイ」と言った。私はそれを聞いて「そういえば気持ちワルイ」と一瞬思ってしまった。少し食虫植物の様なものだ。「そういえば気持ちワルイ」と思った私の心の言葉をトケイソウは聞いていたのだ。3年後には花も枝も消滅してしまった。植物はすごい。人の心の声が聞こえるのだ。私達は心の声を聴く人になれるのだろうか。

(さとう・けいこ＝会員)

アーカイブ多摩回誌

◆法政大学環境アーカイブズに行ってきました

8月20日に法政大学環境アーカイブズを訪問。市民活動サービスコーナー資料群(段ボール550箱)を寄託してから10年、本・冊子類は本棚に並べられ、ミニコミ類は中性紙の箱に丁寧に保存されていました。1970〜80年代のさまざまな懐かしいミニコミを読み合い、当時の熱い思いが伝わってきました。詳細な報告は次回通信に掲載予定です。

◆コナラがナラ枯れ

夏でも暑さを吸収してくれる、秋にはたくさんのドングリをつける大きなコナラがナラ枯れし、伐採せざるを得ないことになってしまいました。雨

量が足りずに枯れる木、実がなくなってきた果樹、山野草なども少なくなり、小さな緑地でも気象の変化と影響を感じることが多くなりました。

◆ボランティア募集中

昨年のこの時期に、当番・ボランティアが増えました!と嬉しい報告をしてから1年。それぞれの事情があり、また開館日を検討する事態となっております。月に1度でも一緒に整理や利用者対応をしてくださる方を募集中です。さまざまな市民資料との出会い・発見の醍醐味があります。

◆年末・年始休館日

12月28日(水)、1月4日(水)は休館します。年末最後の開館日は12月24日(土)、新年は1月11日(水)からです。

運営委員会など

6月5日 2022年度総会(参加者19人)、記念講演会(参加者90人)
6月17日 第3回運営委員会、参加者7人。会員・カンパ者、当番予定、来館者・各部会から報告(以下毎回)。総会・記念講演会感想・反省、22年活動内容と代表・部会担当、通信25号検討。
6月25日 第3回緑蔭トーク開催(話し手・中村光一)。参加者18人。
7月18日 第4回運営委員会、参加者7人。22年運営体制・代表等決定、法政大学見学会、通信26号、パンフレット改訂、福島訪問企画。
8月19日 第5回運営委員会、参加者6人。法政大学見学会、パンフレット改訂、福島訪問企画、資料を探る会検討。
8月20日 現場を訪ねる⑦法政大学環境アーカイブズ見学会。参加者15人。
8月21日 第5回資料を探る会(話し手・杉山弘)。参加者6人。
9月16日 第6回運営委員会、参加者7人。法政大学訪問感想・反省。緑蔭トーク分担、新年企画、福島チラシ検討。
9月24日 第4回緑蔭トーク開催(話し手・池谷キワ子・岡田誠)。参加者30人。

会員数(2022年9月)

166(正会員61人
賛助会員101人・4団体)

カンパありがとう

(2022年6〜9月)

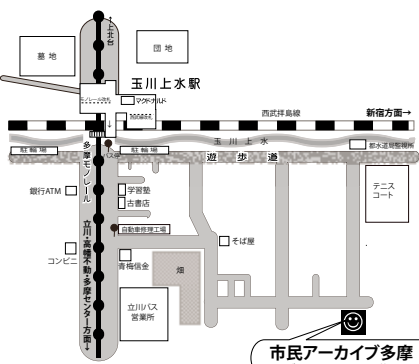
澤西義博さん 波多野ゆき枝さん
町村敬志さん 山田征さん
匿名2人

参加者・来館者の声

・知らないことが多かったのですが、資料や当番の方から非常に多くのことを教えていただき、沢山の学びを得ることが出来ました。
・是非、現在自分が関わっている運動の情報を紹介したいと思っています。
・市民アーカイブに資料があつて活動されている方々をご紹介いただけると、本当に勇気づけられます。他団体からも情報の拡散などもできればいいですね。
・市民活動の資料収集は、とても貴重な活動だと思います。
・いろいろなテーマで活動している方々のお話をじっくり聴く催しをこれからも開いてほしいです。
・もう一度聞きたいと思う講師のお話などの企画をしてほしいです。
・今思うことについて、改めて語っていただきたいです。
・資料を保存しつつ、講座を開いてくださっている市民アーカイブの存在は大切な場だと思います。
・2022年度の事業計画の「遊びの要素を取り入れる企画」が楽しみです。クイズ形式が面白いかも。

編集後記

ピラを作るからには、より多くの人びとに届いてほしいと考えるという松野さんのお話には大いに共感した。この通信もまた然り。いかに伝えるかを毎号模索しながら、今号もまた新しい人と出会えることを期待して。(鈴・江・佐・増)



【市民アーカイブ多摩利用案内】

- ・開館日：毎週水曜日、第2・4土曜日(12月28日、1月4日休館)
- ・開館時間：午後1時〜4時 ・入館カンパ：100円〜
- ・所在地：東京都立川市幸町5-96-7
(多摩モノレール、西武拝島線「玉川上水駅」南口徒歩8分)
- ・tel・fax：042-536-5535 (電話は開館中のみ)
- ・見られる資料：2002年以降に市民活動団体や個人が発行するミニコミ(通信や会報など)2,000タイトルほか
- ・ホームページにミニコミのタイトル、発行団体を掲載しています。
www.c-archive.jp